

**令和6年度 大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業
審査結果表**

大 学 名	大阪大学	タイプ	I：地域等連携型
プ ロ グ ラ ム 名	「地域に生き世界に伸びる」社会価値創出を目指す多文化『共育』事業		
連 携 大 学 等	—		

〔評価コメント〕

本プログラム計画は、世界の社会的諸課題を解決し、「いのち」と「暮らし」を守る強靱で持続可能な未来社会を創造することを新たなビジョンとして設定し、その実現のため長期的な視野から挑戦的・意欲的な事業を完遂する強力なマネジメントシステムを構築する計画となっており、高く評価できる。

プログラム計画の実現性の面においては、大学院英語コースや海外連携大学とのダブル・ディグリー・プログラムなど、すでに実績のある取組をベースとし、それを発展させる形でプログラムを展開するものとなっており、堅実な成果が見込まれる。

また、多文化共修のための体制面においても、外国語学部のリソースを活用し、英語のみならず他の外国語による高度な運用能力を身に付けることを目的としたマルチリンガル・エキスパート養成のための基盤が整備されており、そのプログラムもユニークな取組みと言える。これまで英語圏中心で牽引されてきたグローバル化の方法論に新たな視点を提供しうるものとして期待が持てる。

一方で、学部における日本人学生の送り出しや、外国人学生の受入れについては、日本の国立大学として最大の学部生数であることより、さらに高い目標を設定し意欲的に取り組んでいくことが望まれる。

また、カリキュラムの面においても、本プログラムを通じて、多文化共修科目への再構築や科目の設置増を目指してはいるが、その設定目標値や、多文化共修科目に対応する教員数が少ないことが懸念される。合わせて、「多文化共修科目」や「国際交流科目」などについては、特別なカリキュラムとしてではなく、全学の教育の一部として定着するような試みになるよう留意していただきたい。その後、このようなカリキュラムを受講した日本人学生や外国人学生が、どのような社会課題の解決に取り組み、それが社会にどのようなインパクトを与えるのか、アセスメントを含めたフォローアップについてもしっかりと検討を進めていただきたい。

最後に、今回選定された貴学においては、世界や地域の課題解決に資する人材を育成するため、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動を、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことを強く要請する。